

小学校の教育実践にみられる子どもの変容と分析

高山 芳 治

緒 言

本研究は、新学習指導要領のもとで、子どもたちに「生きる力」が育成されているかどうかを検証するために、教育実践を調査・分析することを目的として取り組んだ。この目的を達成するために、二つのタイプのフィールド研究を行った。

第一は、ユニークな授業・教育活動を行っている小学校のフィールド研究である。その対象として、福岡市立四箇田小学校の古賀一夫が行っている「ひとり学習」の実践と富山市立堀川小学校の教育実践を選んだ。両校では、児童が自主的、自発的に学習している。

第二は京都市内の協力校とのフィールド研究である。その対象として、京都市立金閣小学校、紫明小学校、第三錦林小学校を選んだ。三校とのフィールド研究は、小学校との連携による授業研究として行った。2008年版学習指導要領の改訂によって、「生きる力」を育てるとともに、確かな学力を育成することが重視されることになった。それ故に、各教科の基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題解決のために必要な思考力、判断力、表現力などを育むこと、その基盤となるのは言語力の育成が国語科のみならず各教科等においても強調されることになった。そのため、小学校との連携の下に授業研究を行い、具体的に検証した。本年度は、京都市立金閣小学校、紫明小学校、第三錦林小学校と連携し、社会科、道徳、音楽科、国語科に焦点を絞って共同研究を実施した。各小学校と数度の研究授業を行い検証した。

その成果を研究冊子にまとめ、1月に行われた京都市の研究発表会において、研究授業とともに授業実践について発表を行った。

以下において、これらの研究成果の一部を報告する。